多自然川づくり取り組み事例

タイトル：	自然環境に配慮した維持管理の容易な船底形河道		
水系／河川名：	物部川水系　物部川	河川分類：	大河川
河川の流域面	508	整備計画流量： 4200m3/s	セグメント： 1
事業：	河川改修	事業開始年度	年度
目標設定：	0	段階：	P（計画時）
課題・目的（主な）：	流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全、瀬・淵の保全・再生・創出		
工法（主な）：	掘削（高水敷）、掘削（低水路）、掘削（河床）		
配慮事項（主な）：	委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

＜背景・課題＞

物部川8.0k付近から9.6k付近の治水面においては、昭和30年代のダムの建設や昭和40年代の堰の統廃合、昭和57年の山田堰(9.6k)の撤去などの要因により、みお筋が右岸側に固定され、局所洗掘が進行している。また、8.8kから9.6kは上下流に比べて川幅が広いため流速が遅く、掃流力が小さくなるため、9.0k付近で土砂が堆積しやすい傾向にある。環境面においては、9.0k付近に瀬が形成されており、アユなどの魚類や、底生生物の生息環境になっている。さらに、8.6k付近から9.6k付近の片地川の合流部に亘って、貴重な自然環境が形成されているため、保全していく必要がある。

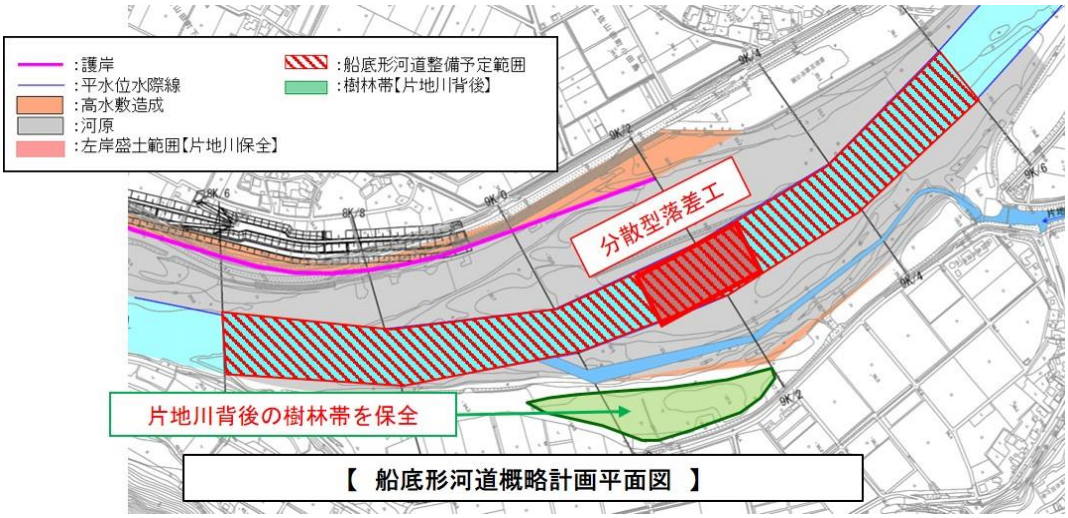
周辺の自然環境に配慮し保全しつつ、治水面の課題を是正し、今後の維持管理が容易な河川改修を行う必要がある。

取り組み内容・対策例（1/2）

＜内容＞

従来の複断面形ではなく船底形河道を整備し、河道全体に流れを受け持たせることで河床を安定させる。左右岸の一部が堆積傾向、洗掘傾向になることがないように、みお筋が河道の中心部となるように設定。

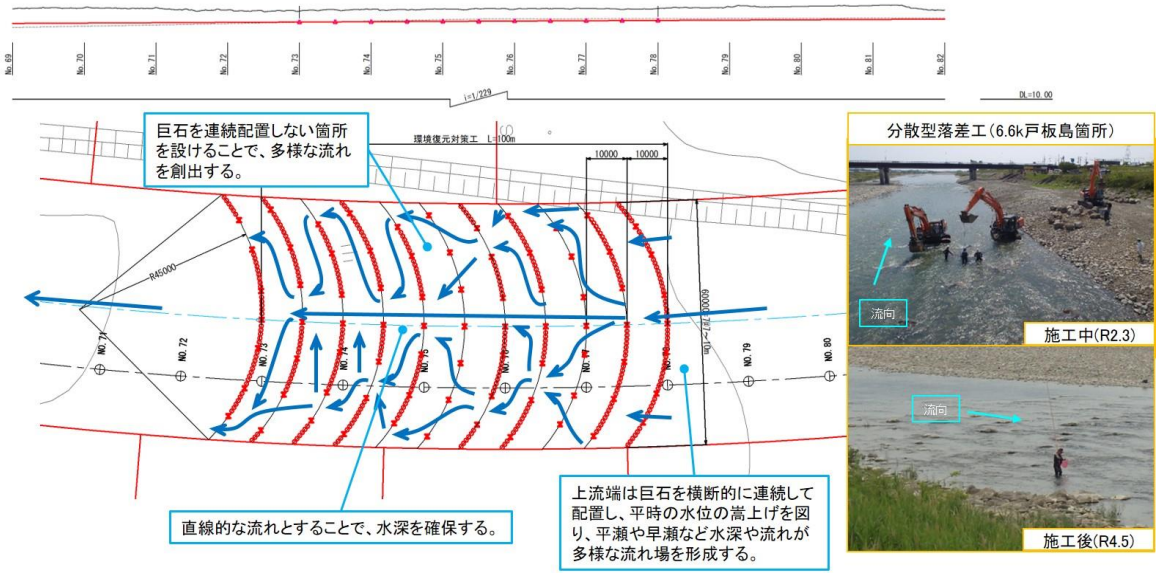
8.6k付近から9.6k付近の片地川の合流部に亘って「片地川保全ライン」を設定し、断面形状を工夫することで、周辺環境に影響を及ぼす掘削、埋め戻しを回避。



【　船底形河道概略計画平面図　】

取り組み内容・対策例 (2/2)

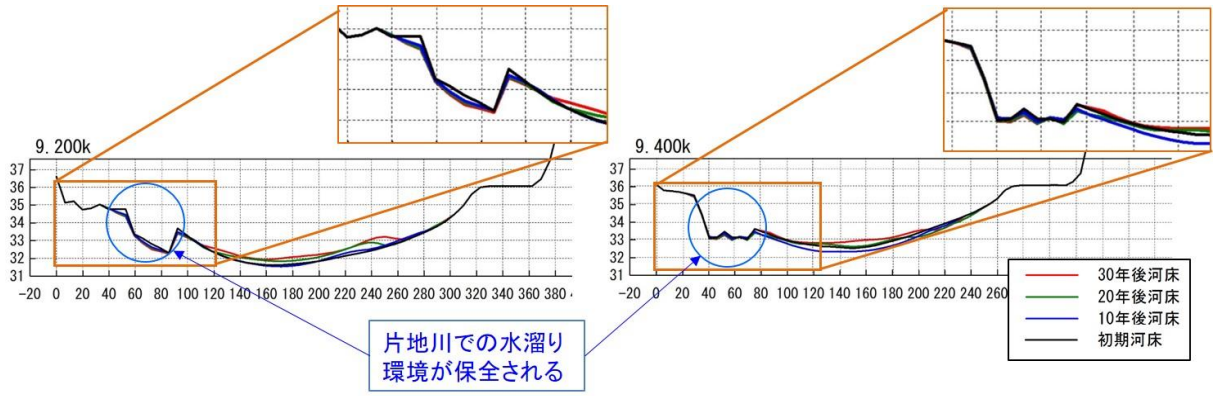
アユ等魚類や底生生物が生息できる環境の創出として、戸板島箇所(6.6k付近)において施工実績があり、実際にアユの生息が確認されている分散型落差工を設置し、良好な環境の復元を期待。



ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

＜アピールポイント＞

整備後の長期予測では、流下能力に影響を及ぼすような土砂堆積等は確認されず、片地川の水たまり環境も保全されているため、自然環境に配慮しつつ維持管理の容易な河道整備が出来ているのではないかと考えられる。



＜今後の対応方針＞

この事例を元に、河川改修を実施する際には、自然環境にも配慮した治水事業を行うことを目指す。

備考

問い合わせ先	高知河川国道事務所　工務課
電話番号	088-833-6901